

所長だより第33号 平成27年6月1日 6月発行

# かきくけ航海日誌

滋賀県立びわ湖フローティングスクール  
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号  
<http://www.uminoko.jp/>



学習のまとめ

「みずうみに学んで 世界の明日をみる」

「かきくけ航海」を生み出そう！

合言葉 か・・・考える き・・・気づく く・・・工夫する  
け・・・継続する こ・・・行動する

## 「50万人乗船！」

【所長 新庄 正幸】



第8回航海 米原市立米原小学校、長浜市立長浜北小学校の皆さんの乗船で、就航以来50万人を超える子ども達が乗船したことになります。この数字の重さを実感しています。

昨年4月に赴任して直ぐ、所が今まで発刊してきた「湖の子」文集12冊すべてを読み返し、この所長だよりでも一部を抜粋し発信

したことを懐かしく思い出しています。毎航海の子どもの「体験学習度」アンケートの言葉と同様、本所の財産です。

昭和60年に乗船した子どもは、「私が2年生の時、船の名前のぼ集があった。私たちは『シルバー号』と名づけようとみんなで相談した。その時、早く5年生になれないかなと思っていた。このゆめがようやくかなってうれしい。」と。また、平成6年に保護者体験航海に乗船した保護者は、「『うみのこ』に乗れる滋賀の子は、とっても幸せだね。お父さんやお母さんたちも大好きなこの大切な湖を守ってってくださいね。お父さんやお母さんが乗って勉強する『湖の親』の船もあつたらいいのになあ」と、実際に乗船してのメッセージをいただいていたのです。

今乗船してくる子どもたちは、「フローティングスクールで学んだことを生かした大人のように、10年後もぼくたちも学んだことを生かしていきたい。」や「滋賀県がびわ湖をあずかっている。『ほんとうにそりゃなあ〜。』滋賀県に生まれてきてよかった。」と感じています。5月31日現在、滋賀県の人口の約35%に当たる500,831人のフローティングスクール卒業生がそのことを実践すればもっともっと素晴らしい湖になっていくと思います。それが、「湖の子から湖の親」への責任ということではないでしょうか。

### かきくけコーナー

こんな学習のまとめがありました。びわ湖環境学習の各学習の終わりの約5分間で、各自気づいたことを付箋紙に記入し、台紙に貼っていきました。各班、「気づき」が多く出たため、子どもなりの「考え」にまでしっかり学習が及んでいました。さらに、『2日間で見たびわ湖の姿は〇〇である。だから、私たちは・・・』のキーセンテンスでまとめたものを、班ごとに発表しました。次のような表現に出会いました。「人間と持ちつ持たれつ」である。だから、私たちは「びわ湖に感謝しながら生活しないといけない。」とか「生き物がたくさんいるびわ湖」である。だから、私たちは「生き物がすみやすい環境を作れるように、まずは水をきれいにする努力をする。」等々。決意をして下船していった子どもたちの実践力に期待します。(右上写真)